



私は、今回「高校生による海外エネルギー事情研修会」に参加して、たくさん  
のことを学ばせていただきました。

11月にはエネルギーについての学習、東北電力(株)東通原子力発電所および日本  
原燃(株)原子燃料サイクル施設の見学、1月初旬にはプレゼンの練習等を行い、1月  
28日にスウェーデン大使館とフランス大使館を訪問し、1月29日に出国しまし  
た。海外での研修は2週間という短い期間でしたが、私は様々なことを感じ、そし  
て考えることができ、貴重な経験をすることができました。

本レポートでは、主に海外での研修について述べていきます。

## 1. エネルギーについて

### (1) フランス、スウェーデンのエネルギー事情

フランス、スウェーデンの両国とも環境や政策の違いによって、エネルギーへの  
取り組みや考え方に違いがありましたが、最終的な目標は似ているように感じまし  
た。

まず、フランスですが、電源別の発電電力量において、原子力の割合が約70%  
を占めています。フランスは大きな地震による原子力発電所の事故の危険性は低い  
のですが、前政権（オランド政権）が原子力発電の比率の低下を打ち出したことか  
ら、少しずつ原子力発電所を閉鎖しようとしています。その一方で、原子力発電所  
を閉鎖することによる失業者増加、燃料費高騰などの経済的ダメージも大きいため、  
計画通りには進んでいないようです。将来は、原子力発電を減らし、再エネを増す  
という方針のもと、海洋エネルギー発電などの新しい再エネの研究が進められてい  
ます。

次に、スウェーデンですが、同国の電源別の発電電力量は水力発電と原子力発電  
とで約80%を賄っています。スウェーデンのエネルギー政策は、温室効果ガス排  
出削減などの環境問題に重点が置かれており、EUの中で最も再エネによる発電を  
行っています。スウェーデンでは今後自分たちが使う電氣量を再エネですべて賄う  
ことを目標としています。

## (2) 施設見学

ラ・アーク再処理施設や六ヶ所の再処理工場では、危険な区域毎に色で表示されており、放射線被害を防ぐための検知を行う場所がありました。また、安全対策についても今まで知らなかった部分を見ることができました。

フォルシュマルク中・低レベル廃棄物貯蔵所では、使用済み燃料のサイクルは行わずに直接処分しております。いずれは、スウェーデン国内全体で使用された放射性廃棄物の埋め立てのほか、原子力発電を閉鎖したときに発生する廃棄物をもここで処理できるようにと拡張建設計画が進められていました。日本ではこうした施設には補助金などが給付されますが、この廃棄物処理場への国からの補助金はないそうです。スウェーデンでは「原子力発電を使用してきた私たち世代が最後まで請け負うべきである。次の世代へ持ち越すわけにはいかない。」という気持ちでこの事業を行っているということでした。このことが心に響き、私たちも真剣に考えなければならぬと思いました。

普段見ることのできないところの施設見学を通して、安全性に対する取り組みや様々な工夫を理解することができました。

## (3) まとめ（私の意見）

日本は、これからのエネルギー問題について若い世代の意見を取り入れていくためにも、早い段階でエネルギー教育を取り入れていくべきではないかと思いました。フランスやスウェーデンでは、中学生から高校生にもなるとエネルギーについての知識や自分の意見を持っている人がほとんどです。それに比べて日本では、エネルギーに関しての教育はなく、あまりエネルギー問題に触れる機会がありません。エネルギーについて学ぶ機会を設けることで、エネルギー問題への関心が高まり、未来を担う人材も増えるのではないかと思います。

日本は、これから新しい再生可能エネルギーを開発する必要があると思いますが、環境や経済性そして安定供給を考えると、それまでは、原子力発電も必要であると思います。一方で、福島第一原子力発電所のような事故が起こらないのかという不安の声もあると思います。そのためにも、安全性を確保しなければなりません。

日本は、エネルギー資源が乏しいだけでなく、島国であることから他国から電力を供給することはできません。ですから、新しい再生可能エネルギーが開発されるまでは、バランスの取れたエネルギーミックスを目指していくことこそが、一番良い方法ではないかと思います。

## 2. 現地高校生との交流

日本の高校とフランス・スウェーデンの高校には多くの違いがありました。私が感じたことは、どちらの国も日本より自由が多いことです。

日本の学校は何かと規則（縛り）が多いように感じます。それによって私たちは様々なことから守られていること等メリットがあることは事実ですが、私は自由な学校に憧れを抱きました。毎日どんな服を着ようか等を考えることで勉強へのモチベーションが上がるし、自分の好きなような服装でいることは、個性を出すことができるので良いと思いました。

また、授業にも違いがありました。日本の授業は先生中心で、先生が生徒に教えることに時間を費やしていますが、フランスやスウェーデンでは（先生も勿論教えますが）、生徒が中心となってお互いに教えあったりする等、答えにたどり着くまでの過程に違いがありました。授業の一環としてディスカッションを取り入れていることも多く、そういったことからか、エネルギーに関する私たちとのディスカッションでも、自分の考えを皆が積極的に発言していました。

（ちなみに、私たちも自分の言葉で意見を発表することができました。）

## 3. 全体感想・今後に向けて

海外研修を終え普段の生活に戻った今、物の見方や考え方が変わったことを実感しています。海外で自分の目で見たり、感じたり、生まれた場所も育った環境も違う同世代の人との交流を通して、物事をより幅広い視野でみるできるようになりました。また、コミュニケーションをとっている中で、もっと相手のことを理解したい、自分の思いを伝えたいと思い、英語の大切さを改めて実感しました。もっと「話す英語」を勉強していろいろな世界の方々と交流したいと思いました。

今回の研修は、これからのことを考えさせられるきっかけになりました。新しい可能性を見つけることができた研修だったと思っています。

海外研修会は終わりましたが、これは終わりではなく、私たち一人ひとりにとって、未来に向かっての新たなスタートであると思います。この研修会を通して成長できたことに誇りをもって、未来に向かって大きく前進していきたいです。

最後に、このような貴重な経験をさせてくれたこの研修会を企画・サポートしてくださった皆さま、一緒に仲間として同じ時間を過ごしてくれたみんな、本当にありがとうございました。



